



醜テ考フルニ海運造船兩業ハ我國ニ於ケル國家的産業ノ主要ナルモノニシテ、多年保護獎勵ノ結果近比漸ク其理想ノ一端ヲ實現セントスル氣運ニ向ヘリ、而シテ今ヤ千歲一週ノ此好機ヲ捉ヘテ、將ニ大ニ世界ニ雄飛セントスルノ時ニ當リ、前陳ノ如ク鋼材ノ供給不十分ナル爲メ、造船業者ハ其技能ヲ發揮スルニ由ナク、海運業者モ亦拱手長嘆スルノミ、斯ノ如キハ當ニ造船業者及ヒ海運業者ノ利害關係ノミニ止マラスシテ、國家經濟上亦重大ナル損失ト稱セサルヘカラス、仄ニ聞クトコロニ依レハ、大正五年度ニ於ケル製鐵所生産額ノ過半ハ其供給方針未タ確定セストイフ、マタ傳フル處ニヨレハ近キ將來ニ於テ製鐵所擴張ノ計畫アリト聞ケリ、本會ハ深ク國家經濟ノ大勢ニ鑑ミ、現下ノ急需ヲ調節シ、併テ將來本邦造船事業ノ獨立ヲ促進センカ爲メ、此際ニ於テ特ニ左ノ方法ヲ實行セラレンコトヲ切望スルモノナリ。

一、製鐵所明年度生産額中、契約未決定ノモノハ能フ限り之ヲ造船材料ニ振向ルコト。

二、製鐵所ノ事業擴張ヲ急施シ、造船材料ノ供給ヲ潤

澤ナラシムルコト

茲ニ謹テ誠悃ノ微意ヲ具陳ス

頓首再拜

大正四年十二月

造船協會會長 男爵 赤松 則良

●浦賀船渠會社鑄鋼工場に就て

浦賀船渠會社

にては今回鑄鋼工場を建設し、自家用の鑄鋼品を鑄造することゝなれり、同會社は從來其設備無かりし爲、總ての鑄鋼品は之れを阪神地方に注文せり、然るに先般驅逐艦を建造せし當時、總ての鑄鋼所は工事輻湊の爲め快く注文に應ずるものなく、漸く大阪と海軍工廠とに依頼し工事に支障を生せざりしか、少なからず困難し、此時に於て小規模の鑄鋼場設備の必要を感せり、其他鑄鋼品の注文に就ては辛き經驗を有し、或る時の如きは或るものを某工場に委託したるに之れか全部不合格となり、大なる手違を生せしことあり、或は委託せる品物遅延せし爲め納期を誤まりしことあり、此等諸事情の爲め斷然小規模の工場を設備する決心を起せり。

鑄鋼工場建設の議は大正三年末頃に起りしか、彌々決定せしは四年五月初にして、川間分工場に石川島分工場時代鍊鐵工場に使用せし空工場ありしを、鑄鋼工場として設備せしものなるか爲め、不完全を免かれされとも、兎に角相當に鑄鋼品を製出しつゝあり。

建設工事は四年五月十四日より工を起し、總ての機械器具は社内にて製作することゝし、建物の改築機械器具の製作を始めたり、然るに其工事の自家用のものなる爲め、忙しき時には後廻しとなり漸く八月中に至りて略々竣成し、九月一日初めて鑄鋼工場の看板を掛けたり、然して之より總ての設備を完成し、機械器具の試験を爲し、九月二十五日